

事務事業名	地区子ども館運営事業	事業期間	2003 ~	年度	係内番号	01
担当部署	こども部	こども課	こども係	連絡先	612	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	教育大綱	0103	地域が支える子育て環境の充実		
			基本計画②	01	こども・家庭応援計画	0901	茅野市子ども館・地区子ども館による子供の居場所づくりの推進		
			実行計画	01	こども・家庭応援計画	0901	茅野市子ども館・地区子ども館による子供の居場所づくりの推進		

予 算 事 業 名	地区子ども館運営費	会計コード	01	款	03	項	02	目	05	事業	02
-----------	-----------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
市内10地区10ヶ所に設置されている地区子ども館の管理及び運営。各地区子ども館の開館時間、開館日、企画等は地区子ども館運営委員会に委ねている。各館にはどんぐりメイト（臨時職員）が配置されており、子どもの居場所として、また地域住民との交流行事等が実施されている。

現 状 と 背 景
(どうして)
こども・家庭応援計画に基づき、第4層(市内10地区)において、主に幼児・学童期の居場所として、また活動を応援、課題解決をするための拠点として地区子ども館は設置された。

目 的
対 象
受 益 者
(誰のために)
地区の子どもとその家族。
対 象
(直接働きかける)
地区子ども館運営委員、地域住民、どんぐりメイト（臨時職員）

意 図
(どんな状態にしたいか)
子どもに安心して時間を過ごせる居場所の提供をしているので、さらなる利用者の増加を図る。子どもにイベント等の実施による異年齢や高齢者との交流機会を提供し、老若男女が集う地域のコミュニティ活動の拠点とする。

手 段 ・ 方 法
(どうやって)
地区子ども館運営委員会への運営費支援
メイト会議及び分室会議の開催

活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
1	情報だより等の発行	発行回数	回	各館の平均発行回数(概ね1ヶ月に1回)	12
2	地区子ども館での行事開催	行事開催回数	回	各館の平均発行回数(概ね1ヶ月に2回)	24
3	各館の情報交換	会議開催回数	回	メイト会議及び分室会議回数(概ね3ヶ月に1回)	4

成果指標	成果・効果は何?	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
1	利用者の増加	10館の平均利用者数の増	人	10館の1日平均利用者数(どんぐりプラン目標指標に掲載)	40
2	ボランティア協力者の増加	10館の協力者数	人	10館の年間延べ協力者数	800

実 施 状 況	項 目	単 位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
財 源 内 訳	事業費等(a)	円	22,290,179	23,274,000			
	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	22,290,179	23,274,000			
活 動 指 標	発行回数	目標	回	12	12		
		実績	回	12			
		達成率	%	103.33	-	-	-
	行事開催回数	目標	回	24	24		
		実績	回	25			
		達成率	%	102.08	-	-	-
会議開催回数	目標	回	4	4			
	実績	回	5				
	達成率	%	125.00	-	-	-	
成 果 指 標	10館の平均利用者数の増	目標	人	40	40		
		実績	人	38			
		達成率	%	95.00	-	-	-
	10館の協力者数	目標	人	800	800		
実績		人	830				
達成率		%	103.75	-	-	-	
備 考							

事務事業名	地区子ども館運営事業	事業期間	2003 ~	年度	係内番号	01
担当部署	子ども部	子ども課	子ども係	連絡先	612	

事業 評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果動向指標要因分析	情報だより等の発行や地区子ども館で行事を開催することによって、利用者の増加、またボランティア協力者の増加に繋がった。				
	総合評価	子どもの居場所、また異年齢や高齢者との交流機会を提供し老若男女が集う地域の子育て拠点としての機能を果たし、子ども・家庭応援計画に基づく「居場所づくりの推進」を担っている。 概ね目標値に近づいているが、各地区子ども館の活動指標の実績に大きな差がある。各地区の現状に合わせた子どもの居場所として、また地域の子育て拠点としての活動を支援していくことが必要。				
	改革・改善の方向性の内容	現状維持 現状維持 地区子ども館が地域の子育て拠点に位置づけられているため、どんぐりメイト(臨時職員)が地域のさまざまなイベント等に携わるなど、業務が増加傾向にあるため、業務内容の精査が必要。 また、今年度から市図書館職員が分室周りを行うなど、分室と図書館との連携が密にできるようになってきているため、引き続き取組を実施する。				

作成担当者	小林拓斗				
最終評価責任者	五味健志				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	こども館0123広場運営事業	事業期間	2001 ~	年度	係内番号	01
担当部署	こども部	こども課	こども館	連絡先	71-1661	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	教育大綱	0103	地域が支える子育て環境の充実		
			基本計画②	01	こども・家庭応援計画	0901	茅野市こども館・地区こども館による子供の居場所づくりの推進		
			実行計画	01	こども・家庭応援計画	0901	茅野市こども館・地区こども館による子供の居場所づくりの推進		

予算事業名	こども館0123広場運営費	会計コード	01	款	03	項	02	目	05	事業	01
-------	---------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
 ・主に0歳から3歳までの親子の居場所として、人と人との交流拠点、また、子育て、子育て、子育ての場としての運営の拡充を図る。
 ・親子が安心して集え相談できる場、子育てについて学習できる場として、子育て支援施設としての役割を果たしていく。

現状と背景
(どうして)
 ・主に0歳から3歳までの親子の居場所として、人と人との交流拠点、また、子育て、子育て、子育ての場としての運営の拡充を図る。
 ・親子が安心して集え相談できる場、子育てについて学習できる場として、子育て支援施設としての役割を果たしていく。

目的
 受益者 (誰のために)
 ・0歳～3歳を中心とした、就園前のお子さんと子育て中の方
 対象 (直接働きかける)
 ・0歳～3歳を中心とした、就園前のお子さんと子育て中の方
 意図 (どんな状態にしたいか)
 ・より多くの親子がこども館を利用することで、子育て家庭の育児不安の解消と育児支援を充実させる。

手段・方法
(どうやって)
 ・利用者運営委員との連携を大切に、講座や行事等を開催して、子ども同士・親同士が遊び交流できる場、子育てについて学習する場にする。利用者の思いを引き出し、利用者運営委員会が活発に活動できるように支援をする。
 ・子育てに関する相談には何でも応じ、必要に応じては専門機関につなげる。
 ・「子育て情報掲示板」や通信など、子育てに関する情報提供を充実させ、子育て・子育てにつなげる。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		1	子育て講座・行事等の実施	子育て講座・行事開催回数	回	子育て講座・夏まつり・クリスマス会等の開催回数	20
		2	子育てに関する何でも相談	相談受付件数	件	年間延べ相談件数	400
		3					

成果指標	変更履歴	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		1	茅野市内の利用者の維持と増加	市内利用者延べ人数	人	(どんぐりプラン目標指標に掲載)	14,000
		2	レポート回数の増加	レポート回数	回	リポーター上位30人までの一年間の平均回数	75

実	施	状	項	目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
						事業費等(a)	円	10,875,820	30,293,000	
財源内訳	国庫支出金	円	2,830,000	6,830,000						
	県支出金	円	2,830,000	2,830,000						
	地方債	円		4,800,000						
	その他特定財源	円	188,567	174,000						
	一般財源	円	5,027,253	15,659,000						
状況	活動指標	子育て講座・行事開催回数	目標	回	20	20				
			実績	回	27					
	相談受付件数	目標	件	400	400					
		実績	件	381						
	-	目標	-	-	-	-	-			
		実績	-	-	-	-	-			
成果指標	市内利用者延べ人数	目標	人	14,000	14,000					
		実績	人	11,682						
	レポート回数	目標	回	75	100					
		実績	回	101						
備考	達成率	%	135.00	-	-	-				
	達成率	%	95.25	-	-	-				

事務事業名	こども館0123広場運営事業		事業期間	2001	~	年度	係内番号	01
担当部署	こども部	こども課	こども館			連絡先	71-1661	

事業 評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果要因分析	子育て講座や行事を充実させていることもあり、近隣の市町村の子育て支援施設が増加している中、利用者数を維持できている。増加させることを目標とするが、少子化という現状を踏まえ、目標値設定の妥当性について、検討をする必要がある。				
	総合評価	知り合いの少ない若い親も気軽に集える場、親子の触れ合い・親と親のつながりを作る場、育児等の相談窓口として機能している。				
	課題	市民ニーズ、期待度ともに高い施設のため、利用者へのサービスは拡大していく必要がある。利用者運営委員と連携を取りながら、親育ち子育ての場となるよう子育て講座、イベントなど応援の在り方を検討し実施していくことが必要。				
改革・改善の方向性(ACIT)	翌年度方向性	成果 コスト	拡充 縮小			
	改革・改善の方向性の内容	来年度、床の改修工事及び照明のLED化工事を行い、環境を整え、利用者数の増加や施設の機能向上を図る。床の改修工事により、毎年コーキング等の補修を行うために要した経費の削減が期待できる。また、LED化により電気料及び蛍光管の購入に係る消耗品費の削減が期待できる。				

作成担当者	横内 佐季				
最終評価責任者	五味健志				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	子ども館CHUKOらんどテクノ運営事業	事業期間	2001 ~	年度	係内番号	02
担当部署	子ども部	子ども課	子ども館		連絡先	75-1199

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	教育大綱	0103	地域が支える子育て環境の充実		
			基本計画②	01	子ども・家庭応援計画	0901	茅野市子ども館・地区子ども館による子供の居場所づくりの推進		
			実行計画	01	子ども・家庭応援計画	0901	茅野市子ども館・地区子ども館による子供の居場所づくりの推進		

予算事業名	子ども館CHUKOらんどテクノ運営費	会計コード	01	款	10	項	05	目	03	事業	08
-------	--------------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
 ・茅野市子ども・家庭応援計画（どんぐりプラン）に基づき、中高生及び相当年齢の若者が「安心して過ごせる場所」「夢や希望を叶えられる場所」の居場所作りとして設置した「CHUKOらんどテクノ」の管理運営。
 ・イベントの企画や施設の利用方法などを検討するために利用者で組織された「子ども運営委員会」の応援。
 ・中高生が施設内の利用だけでなく、地域のイベントへ参加するなど中高生が地域とつながる拠点となるよう支援する。

現状と背景
(どうして)
 ・茅野市地域創生総合戦略にもあるように、茅野市で生まれ育った子ども達が「将来は茅野市に帰ってきたい」と思ってもらえるような取り組みが求められている。そのためには、社会に出る一歩手前の中高生世代が地域の中で安心して過ごすことや、地域での活動するための拠点となるような居場所があることで郷土愛を育む必要がある。

目的
 受益者
(誰のために)
 中学生・高校生及び同世代の若者
 中高生とつながりたい地域
 対象
(直接働きかける)
 中学生・高校生及び同世代の若者
 中高生とつながりたい地域
 市内中学生・諏訪地域の高校

意図
(どんな状態にしたいか)
 家庭でも学校でもない居場所が地域にあることや、イベントへの参加を通じて地域とつながることにより、地元への愛着を育む。地域の中で自分達の居場所を自分達で作っていくことを通して、茅野市での充実感や達成感を得ることにより「将来の茅野市に帰ってきたいと思ってもらえるようにする。」

手段・方法
(どうやって)
 ・安心して過ごすことのできる中高生の居場所提供
 ・利用者の代表による子ども運営委員会を設置し、中高生が主体的に運営をする。
 ・地域住民による大人によるサポート委員会を設置し、中高生による子ども運営委員会を応援する。
 ・居場所スタッフとしての研修を行い、中高生のニーズに応えられる応援体制を確立する。
 ・地域と中高生のつなぐ役割を担い、中高生地域がともに活動していく機会をつくっていく。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	子ども運営委員会による自主企画事業の開催	自主企画事業開催回数	回	利用者の夢を叶える場としての活用	6
		2	地域社会への参画	地域活動参加回数	回	地域のイベントでの活動発表	6
		3	居場所スタッフ研修	スタッフ研修開催回数	回	中高生ニーズに応えられる応援体制づくり	12
変更履歴							

成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	1	利用者延べ人数の維持と増加	利用者延べ数の増	人	(どんぐりプラン目標指標に掲載)	17,000
	2	悩みを相談できる居場所	利用者相談件数	回	安心して過ごせる場所としての活用	240
	変更履歴					

実施状況	項目		単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	事業費等(a)		円	10,269,516	5,926,000			
財源内訳	国庫支出金	円	0					
	県支出金	円	0					
	地方債	円	0					
	その他特定財源	円	0					
	一般財源	円	10,269,516	5,926,000				
活動指標	自主企画事業開催回数	目標	回	6	6			
		実績	回	10				
	地域活動参加回数	目標	回	6	6			
		実績	回	8				
	スタッフ研修開催回数	目標	回	12	12			
		実績	回	6				
成果指標	利用者延べ数の増	目標	人	17,000	17,000			
		実績	人	13,909				
	利用者相談件数	目標	回	240	240			
		実績	回	102				
	達成率	%	166.67	-	-	-	-	
		%	81.82	-	-	-	-	
達成率	%	133.33	-	-	-	-		
	%	50.00	-	-	-	-		
達成率	%	42.50	-	-	-	-		
	備考							

事務事業名	こども館CHUKOらんどテクノ運営事業		事業期間	2001	～	年度	係内番号	02
担当部署	こども部	こども課	こども館			連絡先	75-1199	

中 評 価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事 後 評 価 (C H E C K)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果動向指標要因分析	・施設利用者が提案する自主企画事業、地域の行事への参加等を多く行い、世代間交流や地域交流することはできたが、そこから施設利用者増加にはいたらなかった。相談件数もそれに伴い目標値には届かなかった。				
	総合評価	・施設利用者については、地域の行事への参加、自主企画事業の開催など、地域での居場所づくり、子ども達の自主性を育むことができた。				
	課題	・施設利用者増加のためにも、自主企画事業、地域の行事への参加の際に、施設の紹介、周知、市内中学校、諏訪郡内高校への施設紹介、周知を行う必要がある。				
改 革 改 善 の 方 向 性 (A C T)	翌年度方向性	成果 コスト	拡充 拡大			
	改革やコストの方向性の内容	・施設利用者増加のため、市内中学校、諏訪郡内高校への施設の紹介及び周知が必要である。 ・施設開設後17年経過しているが施設内設備、備品が更新されておらず、不備のある設備、備品ができていないため、計画的な設備、備品の更新が必要である。				

作成担当者	丸茂 直樹				
最終評価責任者	五味健志				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	学童クラブ運営事業	事業期間	～	年度	係内番号	22
担当部署	こども部	学校教育課	学務係	連絡先	607	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
			基本計画①	01	教育大綱	0103	地域が支える子育て環境の充実		
			基本計画②	01	こども・家庭応援計画	0902	地域の特徴を生かした子どもの居場所づくり		
			実行計画	01	こども・家庭応援計画	0902	地域の特徴を生かした子どもの居場所づくり		

予算事業名	学童クラブ運営事業費	会計コード	01	款	10	項	05	目	03	事業	10
-------	------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
児童福祉法の規定に基づき、昼間保護者がいない児童に対して、家庭的な雰囲気の中で支援員による正しい生活支援により、児童の健全育成をはかる。月額4,100円、長期休業期においては1日600円の加算負担金を徴収している。平成28年度より小学校6年生までが利用対象児童となり、平成29年度から兄弟減免が導入された。入所児童は、25年418人、26年445人、27年405人、28年418人となり、やや減少傾向にあったが、29年492人、30年586人に増加している。

現状と背景
(どうして)
経済状況の低迷による所得減少による共働き家庭や、近年の社会情勢による母(父)子家庭が増加していることにより、保護者の就労時間も長くなる傾向がみられ、児童だけで家庭で過ごす時間が増えており、保護者の心労が増している。

目的
対象
受益者(誰のために)
屋間保護者がいない家庭の児童および保護者

対象
対象(直接働きかける)
同上

意図
(どんな状態にしたいか)
多くの保護者が安心して会社に勤務できるように、安全で児童の健全育成が図れるような居場所を提供する。

手段・方法
(どうやって)
広報ちの及びホームページで事業内容の周知により募集する。
支援員の研修により資質の向上を図る。
家庭の教育力向上、相談対応をする。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1 学童クラブ入所児童の募集	市民への周知回数	回	保育園年長家庭・小学校1～5年生家庭に通知	1
		2 学童クラブ入所児童の募集	入所家庭への周知回数	回	事業内容の周知	1
		3 支援員の資質向上	研修回数	回	研修会の充実	10
	変更履歴					

評価指標の作成	成果指標	成果・効果は何?	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1 入所希望児童の全員入所	入所率	%	入所者数/入所希望数×100	100
		2 支援員の研修	研修参加率	%	研修参加者数/指導員×100	100
	変更履歴					

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	69,313,152	111,311,000	
財源内訳	国庫支出金	円	15,611,000	22,728,000			
	県支出金	円	15,611,000	22,728,000			
	地方債	円		17,600,000			
	その他特定財源	円	23,717,000	24,578,000			
	一般財源	円	14,374,152	23,677,000			
活動指標	市民への周知回数	目標	回	1	1		
		実績	回	1			
		達成率	%	100.00	-	-	-
	入所家庭への周知回数	目標	回	1	1		
		実績	回	1			
		達成率	%	100.00	-	-	-
研修回数	目標	回	10	10			
	実績	回	10				
	達成率	%	100.00	-	-	-	
成果指標	入所率	目標	%	100	100		
		実績	%	100			
		達成率	%	100.00	-	-	-
	研修参加率	目標	%	100	100		
		実績	%	90			
		達成率	%	90.00	-	-	-
備考							

事務事業名	学童クラブ運営事業		事業期間	~	年度	係内番号	22
担当部署	こども部	学校教育課	学務係			連絡先	607

中 評 価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事 後 評 価 (C H E C K) 改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 (A C T)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	～成果動指要標因分～析	「茅野市学童クラブ条例」及び「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」で、学童クラブ利用対象児童を1から6年生としたことで、利用児童が増加している。大規模校(永明、宮川、玉川)は既に国の参酌基準を上回る状況であるため、2019年から部屋の増設をする。					
	総合評価	学童クラブへの入所者数は増加傾向にあり、今後も共働き家庭は増加すると見込まれる。大規模校(永明、宮川、玉川)の空き教室増設を確保できた。					
	課題	「茅野市学童クラブ条例」及び「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」の基準に見合う常勤支援員が不足している状況ため、早期の人材確保が必要。					
改革・改善の方向性	成果 コスト	現状維持 縮小					
改善の方向性の内容	成果 コスト	今後も共働き家庭は増加すると見込まれ、入所希望者もこれに伴い増加すると思われる。大規模校(永明、宮川、玉川)は2019年から部屋の増設をするため、他学童クラブの別室等の検討が必要。また、部屋数が増え、常勤支援員の増員が必要である中、県主催の研修会への参加や、学童クラブ間の情報共有の場を提供する等、支援員の研修会の質をさらに向上させていきたい。					

作成担当者	篠原 浩一				
最終評価責任者	五味正				
最終評価年月日	2019年5月21日				